

# 湘友会報 2003

第45号・2003年発行  
**湘南高等学校湘友会事務所**  
 〒251-0053 藤沢市本町 3-1-3 湘南ビル 301  
 電話・fax 0466-50-0386  
 <原則として月・水・金の13時～16時に事務所幹事室>  
 mail shoyukai@cityfujisawa.ne.jp  
<http://www.shoyukai.org>

会報文中の氏名に付した 数字は卒業年次を表します。

## 2003年度湘友会総会のご案内

多数の会員の出席を期待します。

場所 湘南高校内 湘南会館  
 日時 平成15年6月28日(土)

受付 午前10時00分  
 開会 午前10時30分

- 議事 (1) 会務報告  
 (2) 会計報告  
 (3) 会計監査報告  
 (4) 会則一部変更  
 (5) その他

会則一部変更は、同封変更(案)をご参照ください。

### 湘友会会則の主な改正内容

- ・ 第1条の名称・事務所をそれぞれ1、2条に分離
- ・ 功労者を参与とする新規定を設け、役員から参与を除外、会計を追加。参与関連事項を会則から抹消
- ・ 会長の任期を3期6年までとする
- ・ 幹事、校内幹事選任方法の明確化
- ・ 総会の審議事項の明確化
- ・ 財務、組織、企画広報の3委員会の明確化

11時30分：総会終了後、同会場にてアトラクション(右記事)

13時00分：懇親会 清明会館食堂(校内)  
懇親会会費 3,000円(当日会場受付で受領)

当日受付で80周年記念品(記念誌・絵はがき)湘友会名簿を販売します。当日は送料割引価格です。

## 総会アトラクション「講演会」講師紹介

関谷 剛男(せきや たかお)氏による講演

### 「がんとDNA」

関谷剛男氏 略歴



1939年東京都に生まれる。湘南高校(33回生)から東京大学薬学部・同大学院を修了、薬学博士。1969年(財)微生物化学研究会微生物化学研究所研究員。1972年から1976年米国マサチューセッツ工科大学生物学部

化学部リサーチアソシエイト。1977年国立がんセンター研究所生物学部室長・同腫瘍遺伝子研究部部長。1993年高松宮妃癌研究基金学術賞。2000年第41回藤原賞を受賞。同年定年退職。

関谷さんは3年前に24年間勤務された国立がんセンター研究所を退官され、その後、厚生省関連の医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構(通称：医薬品機構)で研究顧問として、ゲノム関係の国家プロジェクトのお手伝いをされながら、昨年(2002年)4月から三菱化学生命科学研究所で副所長兼トランスレイショナル研究部長として若手研究者の面倒をみる仕事をされています。

また昨年、平成14年度日本学士院賞を天皇皇后陛下ご臨席のもと、受賞されました。

今回はご多忙の中お時間を頂き、がんとDNAについて講演をお願いいたしましたので、どうぞご期待下さい。

## 本年度輪番幹事雑感 輪番幹事役 江崎 33

昨年初、同級の篠田氏からの電話により、輪番学年幹事を引き受けることになったが、これは氏が湘友会茅ヶ崎支部長になり、同時に支部長代表として湘友会副会長に指名される事になったことから、藤沢支部の幹事の1人だった私に目が向いたのではないかと推察している。

私たちの33期は1年生から2年生になる時に組み替えが行われたのみで、2・3年は同じクラスだった。そのためにクラスとしてのまとまりはあったものの、他の同期生に対する関心は薄くならざるをえなかった。そのことが私を思わぬ大役に引きずり出したのであろうと思っている。

今回の幹事役を期に、初めて33期全体の会合も持つことを幹事仲間で計画している。

前年度の輪番幹事の山田先輩が、いろいろと教えてくださり、資料なども渡していただけたので何とか感じがつかめたような気がした。その後、他級の同期生からの支援も得られることになった。

残された時間は少なくなったが何とか盛会にしたいものである。

## 湘友会会員の皆様へ

### 会長 天野 武和



昨年6月の湘友会総会において会長を仰せつかりました。私のような者で勤まるのだろうか、といった不安のままに早くも今年の総会が近づいてきてしまいましたが、お引き受けした以上は、微力ながら湘友会と母校の発展のために、いささかなりとも尽くす所存でございますので、皆様のご協力とご鞭撻をお願い申し上げます。

前任の杉山 巖会長は、平成2年ご就任以来、12年間にわたって湘友会のために献身的に尽力され、開校70周年、80周年の湘友会としての記念事業を立派にやりとげられ、又その間母校には、新校舎の建設といった大事業がありました。同窓会の代表者というお立場で、大きく貢献されました。その他、会員名簿の整備による組織固め等、そのご功績は数かぎりなく、改めて会員の皆様とともにその労をねぎらい、感謝の気持ちを表したいと存じます。

さて、私は昭和31年(1956年)に湘南高校を卒業いたしました。湘南をこよなく愛する者の一人です。私自身の人間形成に湘南は大きな影響力をもった(換言すれば、その後進歩いや変化がない)と、振り返っております。

英語の授業ではありましたが、実は「民主主義とは何か」を教えていただいたように思えるA先生。難しいテストの連続でしたが、結局は「万葉びとの心」を私たちにお伝えになりたかったのではないかと、思われるB先生。今でも「フランス革命」のことを話題にしたり書物で読んだりするたびに、その授業をきまっと思ひ起こすC先生。右手の法則か左手だったかは忘れてしまいましたが、「理科的な物の考え方」を植え付けてくださったに違いないD先生。又、当時はほとんどの運動部が全国レベルの水準にあったので、校内は運動部員が幅をきかせていましたが、私を含めてそちらの得意でない生徒を「体育で落ちこぼれにさせぬ」よう気を配っていらしたとしか思えないE先生等々。お一人お一人の先生方へのご恩は決して忘れられるものではありません。

大正10年(1921年)に創立された母校は、21世紀に入り今年で82年目を迎えております。卒業生はそれぞれ社会の各方面、各分野において、又世界の隅々までにわたって、重要な役割を果たしてこられ、現在も果たしておられます。湘南は世に誇れる学び舎です。

しかしながら、82年の歴史となりますと、今年の卒業生が全日制で78回生、定時制で52回生、通信制で47回生となり、湘友会もそれだけ多くの年齢層によって構成されるようになっております。それぞれの会員は、湘南に学んだ時代時代の背景も異なります。

愛着がある、思い出深いと言っても、一人一人の価値の置き方は同じではありません。従って、湘友会の運営も、地域ごとの活動、卒業年次やクラスごとの集まり、職場あるいは仕事を通しての会合、部活動の先輩後輩の関係などの活動をより活発にさせていただくことが第一でしょうが、しかし、ひとたび全体の行事となった際には、例えば総会などには、そういった枠を超えて大勢の会員が喜んで参加して「湘南出身」という一体感を共有する、そのような湘友会になってほしいと願います。そして、その為のお手伝いをするのが私の任務だと解釈しております。

幸いなことに、これ迄湘友会をお世話してこられた多くの役員の方々が引き続き助けてくださいますし、また新たに役員を引き受けてくださった方々もサポートして下さいますので、力を合わせて、また従来以上に広く会員の皆様のご意見をお伺いしながら、湘友会が全体として、母校の発展に対しては勿論のこと地域社会に対しても、何がしかの貢献ができれば幸いと考えております。

なにとぞ、よろしくお願い申し上げます。

## 大きな楠木のように

### 湘南高校校長 大澤 知来

『光陰矢の如し』とはよく言われることですが、私が、本校のシンボルともいえる大きな楠木の下をくぐり、校長として着任してから早くも一年。



毎朝、正門から楠木にいたる坂道をのぼりながら、左手のグラウンドを見れば、すでに野球部の諸君がバットを振り、サッカー部の生徒がボールを蹴っています。遠くにラグビー部のスクラムやテニス部の諸君のボールを打つ姿も見えます。正面の体育館からも元気な声が聞こえ、脇を陸上競技部の生徒が軽やかに駆け抜けていく。生徒昇降口の上の方からは吹奏楽部の音が響いている。

「今日も活気に満ちている」と思いながら、私の湘南高校における一日が始まります。昼休みや放課後には、時々、生徒が校長室を訪れて、私と明るく話をしてくれます。そして……、あつと言う間に一年が経ってしまいました。

私は、生徒諸君の明るさ、湘南高校の明るさから、私自身の活力をもらい、この一年間を過ごしてこれたのだと感じています。

しかし、校門の両脇に立つあの大きな楠木の樹齡は、いったいどのくらいなのだろうと思って聞いたところ、「昭和8年4月に楠公誕生地から苗木を移植」とのこと。楠木の成長の早さに驚きながらも、あの楠木のように大きく成長していくであろう生徒諸君と共に生活していける幸せを感じています。

## 湘南高校 Now

### ・クラス数さらに減少 青が消える

今年度の新生(81回生)は昨年と同様8クラス、320名。3年生のみ9クラスとなり全校生徒数はちょうど1000名(男女ほぼ同数)というところ。対組の色分けも、来年から8色となる。昨年消えた赤に続いて、抽選の結果、今年度限りに青が消えることとなった。茶色も灰色も健在で、湘南の色彩は地味目、渋目の傾向である。

### ・学区の変化 制度改革

学区(藤沢市・鎌倉市)外からの入学者数が全体の8%から25%に拡大されて今年で三年目。教えている立場から見て特に大きな変化はない。電車通学の生徒が増えたなあ、というあまりにも当たり前前の感想があるくらい。とはいえ、今後は東京都のように学区を撤廃して全県一区に、という動きも予想されたりして、制度改革の先行きは予測もつかない。「情報科」や「総合的学習の時間」といった新たな授業も今年度の新生から導入され、生徒も教師も対応に努力している最中である。

### ・活発な部活動

湘南高校の部活動は相変わらず盛んである。2002年度の全国大会出場は、水泳部、陸上部、フェンシング部。県大会出場なら、上記の他に女子バスケットボール部、サッカー部、軟式野球部、バドミントン部、卓球部、体操部、女子ソフトテニス部、さらに吹奏楽部と枚挙にいとまがない。また化学研究部と生物研究部が全国総文祭文化連盟賞を受賞している。生徒数減少にともなう全国的な部活動低迷状況にあって、頼もしい現況である。

### ・進学 学習

2003年春の進学実績については別の資料に譲るが、神奈川県立高校として抜群の成果を収めていることは例年のとおりである。この機会に書いておくと、都立高校の改革に際して『日比谷から東大に数十人合格が目標』などという同校関係者の発言があって、ちょっとびっくり。都知事はそういう発想を一番嫌う方ではなかったのか? まあ、最近『公立からでも東大に行ける』なんていう本が売られているくらいだから、仕方がないのだろうか。しかし少なくとも、大学進学は手段であって目的ではない、というくらいのことは確認しておきたいものである。

生徒の日頃の学習態度は、卒業生の皆様と同様、多様多彩なレベルである。気になるのは、多くの生徒が塾や予備校に通っていること。そんな時間があつたら、自分で勉強すればいいのに、と思ってしまう。授業、部活、塾の繰り返しで生活していて、結局、目覚めているのは部活の時間だけ、なんていうこともあるのかも。

### ・浦和高校戦廃止

昨秋に、浦和高校側より申し入れがあり、本校でも職員間や生徒委員会、生徒総会等で種々協議の結果、この申し出を受け入れることとなった。昭和32年10月19日浦和高校における第1回定期戦以来、昨年5月8日の湘南高校における第46回戦に至るまでの長い歴史であり、その間にこの行事が両校の生徒に与えた影響には測り知れないものがある。卒業してみると、人生の様々なシーンで浦和高校出身者に偶然出会う機会も少なくなく、お互いに親近感を抱くものである。その伝統がなくなるのは寂しい気もするが、先方の事情もあって致し方ないことである。2003年3月24日付けで両校の校長が「交歓定期戦に関する覚え書き」を取り交わしたので、ここに転載し記憶に留めたいと思う。



「神奈川県立湘南高等学校と埼玉県立浦和高等学校は、交歓定期戦を廃止することで合意した。これ以後は、両校の生徒会本部、部活動、PTA、同窓会などが個々に交流を深めていくこととする。以上の合意を確認するため、この覚え書きに署名する(両校校長署名捺印)」

半世紀にわたって受け継がれて来た浦和高校との友好関係は、この廃止によって雲散霧消するものでなく、浦高戦経験者の大きな精神的資産として残るばかりでなく、今後の両校間のさらに多様・親密な交流の基礎となるものと信じたい。

(校内幹事 川田 46)

### 2003年春の職員異動

(割愛)

#### ウェブ版湘友会報についてのご説明

ウェブ版は、会員のみならず会員以外の不特定多数の方々にも参照されるため、次の改変を行っていますのでご了承ください。

会員の氏名は、名前は削除し、姓のみ記載。また、連絡先電話番号は削除。ただし、会長、副会長、校長先生、著名な方、故人の姓名は原文のまま。

決算・予算報告、教職員の異動、委員会等の組織の構成員のリストは割愛。

湘友会ウェブマスター

## 定時制部会より

### 「部会の近況報告」

定時制部会長 田添 正

#### 1. トピックス

第52回卒業式は、平成15年3月3日(月)午後6時から母校多目的ホールで挙行され、72名の卒業生が巣立ち、定時制部会も約4000名となった。毎年数名の外国籍(ブラジル・東南アジア)の生徒が含まれているのも定時制の特徴である。

なお、今回卒業生の内9名が3年間で卒業した。その中に朝日新聞(2003年2月2日)の湘南版で取り上げられた若山氏(64歳)が含まれていることを特筆したい。若山さんは退職後60歳で入学し、3年間で卒業した。最近10年間で655人の卒業生を送り出したが、60歳以上は2人目という。卒業後は大学夜間部に進学し文学を専攻する。

#### 2. 定時制を取り巻く環境

昨今の長引く不況の波は、定時制に通学する生徒の経済も圧迫し、湘友会への入会金が増え負担になり全員が加入出来ないため、今回の会報発送時に再度加入を呼び掛けることになった。なお、担当の清水先生から要請があり、入会についての説明会を開催したことを追記します。

## 通信制同窓会より

### 思い出作りの同窓会

湘友会むつみ会支部 会長 若命 徳達

皆さんお元気ですか。

月日が経つのは早いもので、私たちの「むつみ会」が35周年記念同窓会を開催してから5年の歳月が過ぎ、本年10月18日には40周年記念同窓会を計画しております。

通信制課程では、全日制、定時制と比べて登校日が少なくて卒業しています。先生方や仲間と話し合ったり行動する機会も少なく、勉強(?)のみに専念し、何か大事なものを忘れて卒業しているのではと私は思っています。卒業してからの年数の違う仲間が、僅かな記憶をもっともっと大きくしてほしい、それには、同窓会に参加し新たな思い出を作り、不足している登校日を増やして自分自身のこれからの人生の糧にしてほしいと思っております。幹事会では、皆さんに忙しい中で参加して良かったと思われるような企画を、有り余るアイデアと実行力で着々と準備を進めております。先輩、後輩が一同に会し、先生方との語らいの中から新たに思い出の1ページを作してほしいと思います。新しくなった湘南高校の校舎を見学し、大いに楽しみ、秋の一日をくつろいでほしいと思っております。ご多忙の皆さんにはお早めに予定して頂きたくお願い申し上げます。

# 支部だより

### 藤沢支部

去年2002年は8月24日(土)総会の後、前茅ヶ崎市長根本君(28回生)の講演を聞いた。題は「湘南市にちなんで」副題として今話題の湘南市についてであった。是非はこれから皆が考えていくとして、やはり湘南という二文字は湘南高校の上につけておきたいという講演者の一言に拍手がわいた。人数は90名と小人数ではあったが、ビンゴゲームなどで盛り上がり、お酒も入って楽しい時間を過ごした。

今年2003年は、8月23日(土)藤沢グランドホテルにて午後6時より総会を行い、前神奈川県知事岡崎君(25回生:写真)をお招きして「知事二期8年を振り返る」という講演をしていただくことになった。TVKテレビ等でしか答弁の聞けなかった私達も、生のソフトな知事に接してみたいものである。勿論お食事お酒も沢山用意して、皆さんのご来場をお待ちしております。お誘い合わせの上、夏の一時を楽しく過ごそうではありませんか。又他市にお住まいの方のご参加も大歓迎です。奮ってご参加下さい。  
(文責 宮代<sup>36</sup>)



### 鎌倉支部

### しばらくぶりの総会

鎌倉支部は逗子・葉山を含めて活動しており、平成10年以来の総会を2002年8月17日(土)17時から鎌倉芸術館で開き、出席者は100名を超えた。大江副支部長の開会のことば、蔵並支部長・天野湘友会会長・大澤湘南高校校長に、恩師・来賓の武藤先生の挨拶があった。トークショー「湘南今昔談義」は司会の横山さんを含め、戦前の湘南中学の山内君、野球部全国優勝の斉藤(岡本)君、女性代表の重松さん、湘南高校の先生だった岩田君らの話があった。湘友会前会長杉山巖君の乾杯の音頭で懇談に入り、杉野君紹介のラテン・ヴォーカルグループの賑やかな演奏を交え、懐かしい「青春の歌」や校歌を合唱し、恩師・来賓への記念品や湘友会への寄付を贈呈し、神田常任理事の閉会のことばで散会した。

なお2002年5月31日に鎌倉・二の鳥居の浅羽屋で幹事会が開かれ、母校や湘友会の状況が話され、事務局を下記に変更した。

(住所等略)

(内海<sup>31</sup>)

## 湘北支部

2002年7月28日(日)午後2時~5時、大和グランドホテルにて34名の出席により総会を開催しました。広井支部長の挨拶に始まり来賓の湘友会天野会長ならびに小林校内幹事より母校の近況報告がありました。

議事後鈴木氏による「気道、真呼吸法」の講演があり、いつでも、どこでも、タダで出来る、健康法について学ぶことが出来ました。

尚、次の活動方針を掲げ会員親睦の和をひろげていきますので、支部の地区校友の皆様の参加をお願いいたします。

- 1) 総会開催地を大和、相模原、海老名の3地区として輪番で開催する。(15年度は相模原で開催します)
- 2) グループ活動の推進。  
・ゴルフ部 年2回(H15.5.21 長竹GC開催)
- 3) 機関誌「湘北の薫り」第2号の発行(H15.1.16.発行) (福室28)

湘友会支部は、上記の他、大磯、西湘、県央、横浜、横須賀、東京が設けられております。支部長の連絡先は湘友会名簿2001の7頁にあります。

# 学年便り

### 10回生

「悠久の会」第3回を恒例の通り、東京八重洲口ルビーホールに於いて開催しました。

2002年5月12日太陽の輝く日、9名の出席で代表幹事中村氏の挨拶で始まり、小市氏(アララギ派の中心人物)の発声で乾杯し、先輩の添田先生が杖を携えて出席下され、先生の昭和一桁時代の湘南の思い出話に、一同花を咲かせられました。神奈川県津久井の山中の湘南村の名前が、「湘南」の発祥であるとの事。また各自の話は、「引地の大福」を隠れて食べた思い出話も多く、真面目だった小市氏の湘中時代の旅行の口マンチックな思い出、広田氏の老開業医のエピソード、原田氏の悠々自適の生活と小さな旅のお話、下野氏のフィリピン戦線最後の帝国海軍の奮闘の苦労話、渋谷氏の病気を克服しダンスを楽しんでいる話、出縄氏の息軒昂のお話等々、沢山楽しい話が出て、皆若返りました。明年は、5月25日予定です。(曾我記)

### 12回生

2002年5月11日(土曜日)卒業後65周年、18回目の同期会を地元の日本料理「ひよく」で、午後1時から4時まで開催した。同期生全員が満80才を

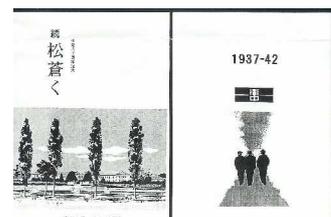


越えており、現存推定人数は39名である。参加人数を気にしたが、予想を越えて15名(当初は18名)が参加した。いつもと違う雰囲気、長時間賑やかに

歓談した。幹事から同期会の今後の存続について提案したところ、やれるまでやるのが老人の生き方であり、希望を持ち続けることが、長生きの秘訣であるとの意見に多数が賛同し、来年も続行と決定した。何時まで続くか頑張ろう。(溝延記)

### 17回生 卒業60周年記念文集出版と同期会開催

50周年記念文集「松蒼く」の後編「続・松蒼く」を今回出版した。吾々の年次は入学直後に日中戦争、卒業直前に大東亜戦争が始まっ



たので、陸海軍の学校へ進んだ友人達から7人の戦死者を出したし、学徒出陣した者の内には特攻出撃直前に終戦を迎えたり、外地からの帰還に筆舌に尽くし難い苦労を乗り越えた者もいる。そして敗戦後はそれぞれの分野で、祖国の復興、再建に生涯を捧げてきた。喜寿を過ぎ卒業60年の節目に当たる年に刊行されたこの本は、若い命を祖国に捧げた友への追悼の念や、幼い吾等を育ててくれた教師への感謝の念に溢れ、読むほどに感慨深いものがある。同期生は今や百十数名に半減し、体調を崩している者も増えたのは残念だが、11月16日、春原、添田、川田三先生をお迎えして40名が母校に集まり、添田先生から赤木校長の創立時代からのご苦労や、他校に比べ傑出した教師、施設、授業内容等、恵まれた環境に育まれたことを伺い、今更ながらに感謝の念を深くした。この後、記念撮影そして清明会館での懇親の宴では懐旧談がはずみ、最後に校歌合唱、万歳三唱をして再会を約し解散した。

(谷崎・保谷記)

### 18回生

18回生同窓会は藤沢地区が幹事役となり、2002年10月25日(金)藤沢駅から程近い藤沢産業センター8階情報ラウンジで開催され、一点の曇もない秋晴れのもと、先生を含め総勢57名の参集を得て和やかに行われた。

会は長谷川君の司会で、赤羽根君の開会の挨拶、鍋木君の幹事代表挨拶に引き続き、物故同窓生諸君を偲んでの黙祷が行われた。次いで、春原先生、添田先生のお話を伺ったが、今年も両先生のお元気なご様子を拝見できたことは我々一同嬉しい限りであり、殊にあと数日で92歳になられるという春原先生の変わらぬお元気さは、我々にとっても大きな励みであった。その後懇親会に入り、2時間の談笑の中に、お互いに過

ぎし青春を懐かしんだ。最後に我々のクラスメイトの本間君作詞、鍋木君作曲の「湘中懐古の賦」と校歌を斉唱して会を閉じた。(中嶋 記)

## 20回4卒の会

2002年10月10日、予定通り総会が藤沢グランドホテルで開催され、70名の会員が元気に集いました。92才の春原先生もご出席され、会員一同大いに励まされました。北海道、長野上田市の会員等珍しい会員が、10数名参加され、積もる話に華を咲かせました。

我々の同期会は、欠席者のアテンドに重点を置き、会員に会報を無料配布し、会報には会員の消息を掲載、これは、会員間の交流、闘病中の方々の大きな支えになっております。今回、この会報に昭和20年撮影の全体写真や皆の記憶を集めた「蟹江先生語録」を載せ、当時苦しかった生活や、勤労働員の昔を偲んでもらいました。今年度も9名の方が亡くなり、我々同期の物故者は100名の大台を越えましたが、総会出席者は減らず、若干増えつつあるのもこの会報のお陰で、今後も継続していきたいと思っております。

(松本 記)

## 21・22回生



平成14年度当番の鎌倉地区が企画し、2002年9月26日に同期会を鎌倉由比ヶ浜の「御代川」で開催した。今回は、金子・春原両先生がご出席下

さり、70人を越える同窓生が参加し、盛況でした。この回に初めて出席された数人の諸兄から近況の報告があり、また、遠く九州、広島、仙台からも出席があり、古稀を過ぎた同窓生は皆さん元気で、にぎやかな楽しい一日でした。この1年間で旧友が4人亡くなられ、ご冥福を祈りました。次回は平塚地区で幹事を担当することにした。(追伸)その後、桜井 明、竹田 節の両氏が亡くなられた。(坂内 記)

## 27回生 『卒業50周年記念同窓会』

我々「27期会(不作会)」(和田会長)は、平成14年春に『湘南高校卒業50周年』を迎えた。「27期会」では卒業30周年以来、クラスが持回り、毎年、「同窓会」を開催してきたが、今年は34組が当番に当たり、クラスのメンバーが力を合わせ、東京帝国ホテル「光の間」での開催を準備してきた。

2002年6月21日(金)17時00分、「光の間」に於ける「記念集合写真撮影」で記念行事は幕を開けたのである。恩師の先生方7名、また、海外在住者6名全員が海を渡って駆けつけ、その他、国内各地からの出席者数は183名を数え、総勢で196名が一堂

に会した。18時00分に総会を開会、ご挨拶、事務連絡等のセレモニーの後、辛島東京大学名誉教授の長いインドに於ける研究生活の傍ら、ご夫人と二人三脚で培った「カレー文化論」を演題にした「記念講演」は、カレーの歴史を理解する上で内容の濃い興味深い講演であった。次に、飯岡日本奇術連盟正会員の見事な妙技披露の後、アメリカ・フロリダより参加した三堀君の乾杯発声で「懇親会」に入ったが、さすがに広い帝国ホテル「光の間」も満席の状態となり、あちら



こちらで散見される旧友との談笑の姿は学生時代の姿そのものであり、全員が時間の経つのも忘れ旧交を温め合っていた。次年度への「担当クラス引継」では34組と35組の出席者全員が舞台上上がり、35組からの「引受挨拶」の後、杉山君と杉野君のリードで参加者全員が「校歌」、「応援歌」を声高らかに斉唱し、20時30分、全ての予定を終了し閉会した。

(松本 記)

## 30回生

平成14年11月16日(土)午後4時より藤沢市民会館にて、第12回同期会を開催した。当日は、恩師6名、同期90名の出席があり、卒業後初めて参加した仲間もおれば遠方より馳せ参じた仲間もあり、記念撮影後、恒例になったうら若き女性の演奏を聴きながら歓談をした。最後に「校歌」、「青春の歌」に加え、昨年からの「青い山脈」を声高らかに歌い、午後6時30分閉会、カステラを手土産にそれぞれ2次会や家路についた。

尚、今年度の第13回同期会は、来る11月22日(土)開催の予定である。(遠藤 記)

## 32回生

第9回同窓会は、2002年11月17日に、担当の37組幹事団のチームワークと献身的努力により、100人の参加者を得て、盛大かつ成功裏に開催されました。今回は従来とかなり趣向を変えて、会費は例年の半分以下にして、気楽に楽しもうと、横浜中華街は聘珍楼本店に集合しました。お蔭様で参加者には大変好評でした。

雨宮先生にご来鷲頂き、とても元気づけられるご挨拶を賜りました。日高君のそつのない司会で宴が進み、まず、32回生が当番学年となっている湘友会からのお知らせが、山田・山口両君よりありました。石渡さんの音頭で乾杯のあと、37組だった榎原君率いるナレイオアイランダーズの心地よいハワイアンをバック

に佳境に入っていました。宮崎君の軽妙なリードによる「クラス対抗パフォーマンス」は、大阪から駆けつけた平岡君のユーモア溢れるスピーチで大いに盛り上がり、丹野・隈元両君のカメラワークによる「お好み写真館」ではクラブ別、出身学校別等、思い思いのグループの写真撮影が大受け。最後に応援歌、校歌斉唱（濱名・新村両君のエール）で気合が入ったあと、宮野君の意外に真面目な中締めで、思い出に残る会もめでたくお開きとなりました。（新村 記）



### 37回生

2002年6月15日(土) 藤沢産業センター情報ラウンジにて5年ぶりの学年会を開催し、約100名参加。まずはそれぞれのクラス別テーブルにクラス再会の後、クラスの境を越えた交流。閉会后クラス別2次会で繰り出し、藤沢駅周辺のそここの飲食店は賑わった由。毎年クラス対抗ゴルフ大会や仲よしハイキングなどが開催されています。連絡が届かない人は、以下のクラス幹事にご連絡を。

31 大谷/32 長谷川/33 加藤三/34 青木/35 原田  
36 樫谷/37 古賀/38 三枝/女林田

総合幹事の亀谷 mail:(略) (大谷 記)

### 52回生

2002年8月24日、東京・八重洲富士屋ホテルで52回生の同窓会が開催され、クラス担任の恩師7名をはじめ、170人ほどが出席して旧交を温めました。「プロジェクトQ」と命名された卒業後25年目の今回は、半年前に事務局・クラス担当合わせて20人もの幹事団が結成され、企画や出席要請が行われてきました。花田幹事長、宮城副幹事長の司会で、湘南高校にまつわるクイズの正解を競う「対組」では大いに盛り上がりました。会場内にはパソコン・コーナーが設けられ、52回生HPを通して、今回出席できなかった同窓生もメールで参加。フィナーレでは幹事制作による、懐かしい映像を集めたビデオ「ハルピンへの旅」上映が行われ、感動のうちに幕を閉じました。また、25年の記念として30回生に倣い横浜文明堂の特注カステラを、旧校舎を絵柄にオリジナルデザインで作成。帰宅後も家族とともに感動の余韻を味わうことができました。



また、25年の記念として30回生に倣い横浜文明堂の特注カステラを、旧校舎を絵柄にオリジナルデザインで作成。帰宅後も家族とともに感動の余韻を味わうことができました。

(大久保 記)

## いろいろ湘友会



### 湘南ラグビークラブ(ラグビー部OB会)総会

元旦恒例の総会が今年も清明会館で開催され、監督が慶大の名ウィングだった大石氏(43回生)から顧問の芹澤先生に交代した。総会后、OBと現役の親善試合が快晴寒風の中で行われたが、OB・OGと現役、そして芹澤先生、保護者を変え、総勢100名を超える熱気と気炎で寒さも吹き飛んだ。保護者の方々の手料理であるトン汁、お汁粉、お雑煮等に舌鼓を打ち、いつもながらのOB・OGと現役一体の楽しい新年交歓風景となった。

一時は、総会をお屠蘇気分の元旦に開催することに疑問もあ

ったが、逆に地方勤務のOBにとって、元旦にこそ仲間と再会出来る



か、卒業以来元旦がOB総会だと納得している、との現状肯定の声が強く、今後も元旦に開催することを確認した。

近年男子生徒数の減少により、部員確保が難しくなっており、けが人が出れば、単独チームとしての出場も危うい時期もあったが、何とか乗り切ってきた。今年の新人戦は、優勝した桐蔭学園に3回戦で敗れ、ベスト16に留まったが、中々の好チームに仕上がった。6月に地元藤沢市で開催の関東大会10回目の出場を目指し、部員不足と受験の壁に対して奮闘している。年々OB会の結束も強固になり、若手OBの練習指導にも熱が入っている。今後もOB会のモットーである、OB相互の親睦と現役の活動支援を推進していきたい。

なお、来る7月5日(土)午後1時より清明会館で菅平合宿支援につき、全学年幹事会を開催しますので、学年幹事を始め、大勢のOB・OGが参加されますようお願いいたします。(会長 近藤<sup>32</sup>)

### 福祉湘友会

昨年7月6日(土) 母校会議室にて心神喪失者処遇法案の問題点をテーマに研修・懇親会を、1月18日(土) 藤沢ホテルにて総会・新年会を開催。いずれも20代から70代と非常に幅広い世代が集いました。

次回は7月19日(土)に母校清明会館にて「不況下の生活保護の現状(長崎国際会議にて報告予定のもの)」をテーマに研修と懇親の会を開催する予定です。

問い合わせ、連絡は奈倉まで (奈倉<sup>37</sup>)

### 吹奏楽部 OB 会

吹奏楽部 OB 会は高校生現役部員とともに、年に一度藤沢・鎌倉のホールを利用した定期演奏会および OB 会総会を開催している。早いもので今年で 23 回を数えることになり、幅広い年代の人々が集まって旧交を温める恒例行事として定着している。

2003 年の第 23 回定期演奏会は 3 月 30 日(日)に藤沢市民会館の大ホールにて開催された。地域のイベントとして定着していること、そしてなによりも現役高校生の普段の活動の成果があり、1300 人を超す来場者を迎え、客席は完全に満席であった。演奏は高校生部員が中心であるが、OB のみによるマーチ演奏も 60 余名がステージにのり、また OB と現役による合同のポップス演奏など現在各方面で活躍されている方々が一つの音楽を作り上げていく様子に観客席からも盛んな拍手がおくられていた。

演奏会の後は OB 会総会が行われ、役員組織、会報や演奏会などの活動報告および次年度の活動計画が承認された。議事は 75 回生の議長と 35 回生の会長によって進められ、湘南高校の良き伝統が伝えられていくような運営がなされるように配慮されている。

懇親総会はそうそうに切り上げ、懇親会に移る。懇親会常連の方々も世代を問わず多数いるが、10 数年ぶり、あるいは今まで仕事が多忙であったり居住が遠かったなどの理由から、OB 会が始まって以来初めて参加したという方々も次々と近況報告のスピーチをして大いに盛り上がった。最後は湘南高校の校歌を伴奏とともに斉唱して締めくくった。(松井 65)

### 湘友会広島



平成 14 年 8 月 4 日、久しぶりに湘友会広島を広島サンプラザにおいて開催いたしました。参加者は中山

21・藤井<sup>23</sup>・山崎<sup>33</sup>・天畠

(若尾)<sup>39</sup>そして県教育長として活躍中の常盤君<sup>53</sup>の 5 名でした。美味しい食事をとりながら歓談いたしました。(中山 21)

### 西日本支部

第 11 回西日本支部総会は、11 月 30 日(土)午後 4 時より大阪・西天満 4 丁目「福屋」・鈴木<sup>35</sup>経営で 35 名の参加で開催されました。司会は平岡氏<sup>32</sup>、井沢支部長の開会の挨拶に続き鈴木より事務局報告があり、乾杯の音頭は最年長菅井氏<sup>12</sup>が元気良くされました。毎年藤沢より参加の澤前湘友会参与<sup>22</sup>が体調不良で初めての欠席で残念なことでした。

続いて今年是将来の関西の景気について、日本銀行大阪支店長・武藤氏<sup>42</sup>の話があり全員興味深く聞き入りました。この後会食に入り、てっちりを食べながら自己紹介ならびに近況報告をしあい約 4 時間半の長きに渡り 18 才に戻り歓談、校歌斉唱の後、井上氏<sup>30</sup>前

支部長の閉会の挨拶で締め、写真撮影し散会致しました。約 40 名が 2 次会へ繰り出しました。

(鈴木 35)



財務委員会より

### 湘友会財政健全化のために

財務委員会をお手伝いして驚いたのは、湘友会の会計は単年度で見れば、赤字になっていることです。繰越金があるから助かっていますが、じり貧状態です。ご存知の通り生徒数は年々減っていますので、卒業新入会員よりの入会金等の収入は年々減少していますが、会員への会報発行・送付等の通信費等の支出は増える一方です。また、今まで預金の利息があり維持できてきましたが、現在ではその利息はほとんど見込めなくなりました。しかし、湘友会として支出しなければならぬ部分 削ることの出来ない支出がかなりあり、今後赤字が大幅に膨らんでいくことは必定です。

そこで、これからは支出をなるべく抑えることが急務です。役員会でいろいろ見直されていますが、慶弔費等は最小限の出費に止め、会員の方々の分は廃止せざるを得ないことになりました。他の運営費についても会務遂行に必要な最低限の経費のみを支出することにして、より一層の節減に務めることになりました。

しかし、湘友会本来の目的である母校の発展に寄与するということからクラブ活動の全国大会出場等に援助したり、特別会計の積立金等で将来の 90・100 周年行事などには協力できるように配慮する方針も出しました。

従来の湘友会関係者の方々が、折りあれば同窓生各方面に寄付をお願い致した気持ちが良く分かりました。財政健全化のためにも 10 年に一度の 10 年会費・5,000 円の納入は、該当学年の方々に必ずお願いいたします。また湘友会名簿・80 周年記念誌・記念絵葉書等の購入や湘友会関係の会合等で少しでも湘友会に寄付をしていただければ幸いです。

(財務委員長 内海)

### ご注意！！！！

最近、会員の皆様宛に「神奈川県立湘南高校同窓名鑑」発行にあたっての調査依頼のカードが送付されています。発行元は人事新報社となっておりますが、これは湘南高校及び湘南高校同窓会・湘友会と一切の関わりのない団体であります。したがって湘友会会員名簿と紛らわしいのですが、全く違う営利の発行物ですので、会員の皆様にはその点にご留意下さい。

# トピックス

## 部活でない劇団「非常口」芽吹く

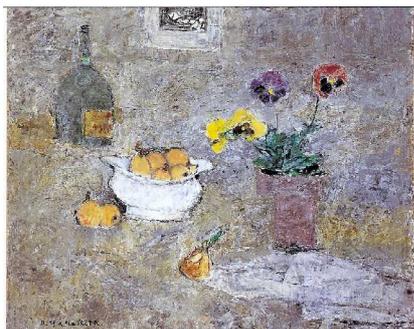
この20年ほど、湘南高校文化祭に、若さと熱さをもてあました運動部有志が集まっての劇団「非常口」の公演がありました。教室の半分を舞台、半分を客席にして、それでも100人の観客が集まり、見るには1時間の行列を待つ評判だったとか。言わば、学内アンテナ劇団です。その彼らは、卒業しても活動を続け、2000年夏に「theatre project BRIDGE」を旗上げ、団員それぞれが、大学劇団やプロ劇団に積極参加して、好演の評判が高いらしい。2002年12月には、母校湘南高校多目的ホールを借りて2日間のオリジナル公演を実現、観劇無料とは言え、350人収容のホールを2日間満員にする偉業を達成した。彼らは「舞台から客席に何かを届けたい、舞台は生モノ、お客の力、だから劇団ではなく、プロジェクト」と言っています。こんな若者像も、母校から羽ばたきつつあります。“BRIDGE”と聞いたら要注意、どんな橋を架けてくれるかな。興味ある方は以下のHPへアクセス！（ウェブマスター注：現在はアクセスできません）

## 脇村春夫さん(26回)が高野連会長に

1949年湘南高校野球部が夏の甲子園大会で優勝した時の3塁手脇村さんが、日本高校野球連盟の第5代会長に就任され、16万人の高校球児を預かる職に就かれました。湘南高校卒業後、東京六大学で野球をしたくて、東京大学の野球部に進み、主将を務められた。東洋紡績で都市対抗野球にも出場、もちろん仕事にも野球で培ったチームワークを活かし、同社の役員まで勤められた。さらに仕事を辞められても、1998年からは、今度は大阪大学大学院に入学され、繊維産業の研究をされておられる由。その傍らでの、高野連会長職を引き受けられ、青春時代今も健在のご様子です。（2002年11月12日朝日新聞「ひと」欄）

## 湘南1回生の画家 山下大五郎さん

80周年記念の絵葉書セットの中にある「パンジーのある静物」(写真)をご存知でしょうか。この絵は初代卒業生の山下大五郎さん(1908~1990年)が母校に寄付された名画です。そん



な大先輩の伝記記事が神奈川新聞に出ていました。（以下2003年4月17日湘南版記事より抄録）

安曇野、越後、戸隠、丹波など日本海側の風景に惹かれた風景画家山下大五郎は、湿潤な日本の美しい風景を写実的に描き、晩年、多くの人々の心をとらえた画家である。温暖な湘南の藤沢に生まれ育ち、なぜか日本海側の厳しい風土に惹かれた画家は、山間の田園の広がりには尽きない美の世界を発見し、さわやかで叙情的な造形美を追究した。

藤沢の篤農家の五男として生まれた山下は、少年の頃より文学や絵画に親しんで育った。県立湘南中学に在籍中、藤沢中学の原精一と親交を結び、鳥海青児らとも知り合う。原の紹介で茅ヶ崎の萬鉄五郎の指導を受けることとなり「性急にならず、正しい基本を身に付けなければならない」の萬の教えを忠実にまっとうする。絵の具の色数の制限を指導されたともいう。

東京美術学校図画師範科を卒業し、高校の図画教師となり、平塚に住む。22歳の時、平塚中心街風景を、多分にセザンヌを意識して描き、第11回帝展に初入選。（この絵は平塚市美術館に収蔵）その後、東京中野に画家生涯を送る居を構える。

美術団体のあり方を熟考し、自らの公募団体参加を反省、自由な立場のグループ展を尊重した。自己を信じ萬の教えを実践した山下の気骨ある人間性が、晩年にいたる風景画に一貫して流れている。

## 64歳現役高校生の卒業

退職後60歳を超えて湘南高校定時制に入学した若山さんがこの春、正規の就学年より1年短い3年で卒業された。

22歳の時、家業の公衆浴場が人手に渡り、大手製造メーカーに就職、溶接を担当した。「高卒の若い部下がどんどん自分を追い越していった。会社ではコンプレックスの塊でした」と言う。在職中から高校進学を心に決めていた。

授業では、会社で使っていた英語は苦労が少ないものの、数学にはてこずられた様子。夜の職員室に居残り、納得できるまで先生に質問した。同級生とは40歳も年齢が離れるが、真摯に学ぶ姿勢に教師や同級生の信頼を寄せられる。学校に来なくなった生徒の親から相談を受けたり、若山さんに刺激を受けて大学進学を決めた生徒もいるという。引き続き、若山さんは、明治大学文学部（夜間）に進学される。

一部の県立定時制高校では、99年度の入学者から大学入学資格検定の合格科目などを単位として認定し、3年で卒業できるようになった。湘南高では、今春約72人が卒業、その内3年で卒業するのは9人ほどとか。（2003年2月2日朝日新聞記事より）

## 人・生き生き

元将棋女流名人 斎田晴子さん(60回)

元囲碁女流名人 小山(西田)栄美さん(63回)



### さいだ はるこ

昭和41(1966)年生まれ。湘南高校在学中の昭和59年、「第20回高校選手権女子個人戦」と「第11回女流アマ最強戦」で優勝。昭和61年女流プロ3級。平成6(1994)年度「女流王将戦」で初タイトル獲得、平成9年度「女流王将戦」でタイトル奪取、平成12年度「女流名人位戦」でタイトル奪取。平成13年四段。平成13年度「レディースオープン2001」で優勝。平成14年6月通算300勝達成。

### こやま(にしだ)てるみ

昭和45(1970)年生まれ。湘南高校在学中の昭和62年入段(プロ入り)平成元(1989)年二段、平成4年三段、平成6年四段、平成8年五段。平成8年「第8期女流名人」、平成9年「第9期女流名人」、平成10年「第10期女流名人」の3連覇達成。プロ棋士小山竜吾六段と結婚。

聞き手：遠藤<sup>30</sup>、渡邊<sup>38</sup>、柏木<sup>51</sup>

### <それぞれの高校時代の思い出>

お二人の湘南高校での思い出などをお話しいただけませんか。

**斎田** 私は、体育祭の思い出が強く残っています。仮装のための衣装の染色なんですが、夏休みにみんなで大きな釜でシーツを染めたことを覚えています。あと、バックボードの絵をみんなで細かく丁寧に描きました。また、合唱コンクールや文化祭も楽しみな行事でした。一生懸命練習していましたね。

**小山** 湘南に入った頃には、私は、プロ養成機関の日本棋院の院生でしたので、プロをめざして、毎週土日は、東京に出かけていました。ですから、1、2年生の頃はまったく学校行事に参加できませんでした。2年生の1、2月頃、リーグ戦を打って入段したので(プ

ロ試験に合格し、プロ入りしたので)3年生になり土日に東京に通う必要がなくなり、初めて文化祭や体育祭などの学校行事に出られるようになりました。それまでは学校行事にまったく無縁の世界でしたから、非常にうれしかったです。

小山さんのプロ入りには、湘南の同級生も喜んででしょう。**小山** プロ入りが決まった後のある朝、学校に行ったら、クラスメートから、プレゼントや花束をたくさん贈られたんです。囲碁は個人的なことなのに、クラスの全員が、プロ試験合格を祝福してくれたんです。そして、みんなが「今度の体育祭は出られるね。」と声をかけてくれて、たいへん感激しました。

斎田さんも、小山さんと同じような体験をしましたか。

**斎田** 私は、湘南を卒業してから、プロをめざして、将棋の女流育成会に入りました。高校時代はそれほどプロになることを意識していませんでした。10才頃、父から将棋の動かし方を教わり、湘南に入るまでは、まだ遊び程度でした。湘南では、将棋部で活動していました。当時の部は将棋と囲碁が同居していて、生徒は全員、部活加入の規則があったので、将棋部の在籍は数十人もいました。しかし、女子は、将棋が2人、囲碁が3人いるだけでした。部活動の目標として、高校将棋の全国大会につながる県大会があり、男子の部と女子の部に分かれていました。男子の部は、当時湘南が大変強く、同級生の大西一広君とかがいて、県大会・全国大会に出場していました。大西君は、卒業後、大学でも将棋の学生チャンピオンになっていました。

ところで、女子の部ですが、私たちは県大会を勝ち抜くことを考えていました。1年生の時は、のち全国大会で優勝した横須賀高校の女子と対戦しましたが、負けてしまいました。2年生の時は、彼女には勝ったのですが、同じ湘南生に負けてしまい、全国大会には行けませんでした。ようやく3年生の時に県大会で優勝し、第20回高校選手権女子個人戦全国大会で優勝することができました。また、こんな思い出もあります。県大会の団体戦に出場しようとしたのですが、人数が3名単位ということになっていたのです。将棋部は女子が2人しかいなかったもので、同級生の女子に「誰か出てくれない。」と声をかけました。出てくれそうな女子が映画研究部員だったので、私も映画研究部に入るからということで、勧誘して出場しました。実際に私は、後で映画の8ミリの編集とかをやりました。

小山さんも、湘南の囲碁部でしたか。

**小山** 母が碁会所と学習塾をやっていた関係で、私は、5才から囲碁を始めていました。そして、小学校4年生の時には、プロの養成機関である日本棋院の院生になっていました。湘南に入った時は、プロをめざしていた時であり、アマチュアの大会には出てはいけないという規定がありました。だから、湘南の囲碁部には入れなかったのです。

### <プロの道に進んで>

お二人のプロになりたての頃の様子をお聞かせください。

**齋田** 3年生の時に、「第20回高校選手権女子個人戦」と「第11回女流アマ最強戦」で優勝してプロを目指す決心をしました。そして、湘南を卒業してすぐに、女流プロの養成機関である女流育成会に入りました。高校を卒業する頃は、アマチュア三段ぐらいでした。その頃、将棋界は少女棋士の出現で盛り上がっていた時代で、とてもタイムリーな面もありました。19歳で女流プロになりましたが遅い方でした。

**小山** 私は、アマチュア初段には小学校1,2年生でなっていたと思います。先ほどお話ししましたが、湘南に入学した時は、プロの養成機関である日本棋院の院生になっていました。それまでは、男女一緒のプロ枠であったのが、私の頃、ちょうどプロ女子枠ができて、たまたま私が最初にプロテストに合格できたということです。まず、プロになれたことが、将来の道が決まったということで非常にうれしかったです。私は、今まで囲碁しかやってこなかったのが、これがだめだったら、他の道を最初から模索しなければいけないという悲壮感もありました。

今回の対談は、将棋・囲碁の女流名人対談という訳ですが、お二人は初めてお会いになるのですか。

**齋田** いいえ、私が最初に女流王将のタイトルを取った時、小山さんからお手紙を頂き、何度かお目にかかりました。とても嬉しかったです。小山さんが囲碁の世界で活躍なさっていらっしゃるのには以前から知っていました。

**小山** 湘南高校の先輩であることを何かの記事で読みまして、応援したくて手紙を出しました。

お互いプロとして、充実してきた頃ですね。

**齋田** 平成6(1994)年度女流王将、9年度女流王将、12年度女流名人のタイトルを獲得しました。3年おきにタイトルを獲っています。平成9年2度目の女流王将を獲った頃までは、ただ上を見ていればよかったのですが、最近は若い人がどんどん増えてきてこちらが目標になってきました。それは嬉しいことでもあり、少し戸惑うことでもあります。思うように勝てず悩むこともありましたが、そんな中で女流名人位が獲得できてとても嬉しかったです。将棋が大好きでプロになった気持ちを忘れずにこれからも頑張りたいと思います。

**小山** 平成8(1996)年度女流名人、9年度女流名人、10年度女流名人の3連覇が達成できました。女流名人になったことは、プロになった高校の時の喜びと同じくらい、うれしかったです。五段になると、シード権が得られ、強い先生ともすぐに対戦できるので、五段になることが、プロになってからの目標だったんです。平成8年に五段も獲れて、女流名人のタイトルも獲れました。

現在、囲碁・将棋の世界で女性のプロはどれくらいいますか。

**小山** 今、囲碁では、現役女性プロは、1~1.5割ですね。人数にして45~50人ぐらいです。

**齋田** 将棋も人数にして45人ぐらいです。毎年二人ぐ

らいつつ女性プロになっています。

囲碁も将棋もお互いの世界が似ているように思えますが、よく将棋の方なら囲碁をやっているようですが、お二人はどうですか。

**小山** 私は、将棋は駒の動かし方が判るくらいですね。一時期やろうと思ったのですが、全然だめですね。

**齋田** お互いに将棋連盟には囲碁部、日本棋院には将棋部がありますので、時々遊びに行行ってチャレンジしようとしたんですよ。でも、やはりわからなくて。

これからお二人がめざす抱負・目標などをお聞かせください。

**齋田** 最近、囲碁界では、子供たちが興味を示し囲碁ブームのようです。将棋の方も将棋連盟の子供スクールが満杯になるなどブームの兆しがあります。TVゲームに夢中の子供さんも多いと思いますが、日本古来のゲーム・将棋の面白さを是非多くの子供さんに知って欲しいですね。人と触れ合い対戦できることによって嬉しさ、悔しさ、忍耐強さなどをいろいろ知ることができます。湘南では現在将棋部はどうなっているのでしょうか。

**小山** 私も、子供たちに囲碁を普及させていきたいと思っています。最近、若い人たちが強いんです。囲碁の世界では、早くプロになった方が、その後の活躍が違います。英才教育を受けて小学生で院生になる場合が多いです。また、囲碁の場合、韓国や中国とも競争していかなければなりません。2国とも英才教育が早く、18、19才で世界のトップレベルになっています。実際、日本はプロになる年齢が高齢化しています。

**齋田** 将棋の場合、プロの外国籍の方はいませんが、国際化というのでしょうか、最近、中国の上海で将棋が小学生の間で普及しており、約7万人の将棋人口があるらしいです。私も、将棋の国際化に大変注目しております。また、将棋もコンピュータ化が進み、将棋の試合の様子が、3日後には、コンピュータで棋譜を取り出して見るできるようになっています。新聞社のホームページではタイトル戦の生中継も見られます。

最後になりますが、現役の湘南生へのメッセージなどがありましたら、お願い致します。

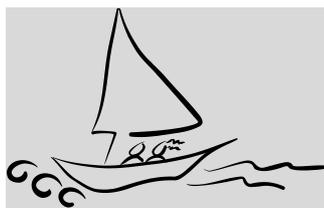
**齋田** 私は、好きな将棋を職業とすることができましたが、湘南生には、夢をあきらめないという気持ちを持ってほしいです。若い頃にがんばったことは、結果的にそれが実現できなくても、必ず将来に生きてくると思っています。

**小山** 周りに流されずに、自分の本当にやりたいことや、自分に何がまっているのかを自らに問いかけて、自分の道を見つけてほしい。

大変ありがとうございました。私たち同窓は、お二人のご活躍を今後も祈念しております。

<平成15年2月8日 新横浜プリンスホテルにて>  
(文責 柏木)

## 2003 年湘友会アレコレ



### 80周年記念誌・記念品(絵はがき)販売中

母校創立80周年を記念して発行された「記念誌」と「絵はがき」(教員・先輩奇贈の校内展示絵画8枚組)を残部が有る限りでお譲りいたします。

価格は「記念誌」1800円、「絵はがきセット」700円、共に送料込みの値段です。購入希望者は、郵便局備付けの振込用紙に氏名、卒業年次、住所、品目数を記入して下記口座に送金ください。入金確認後直ちに発送します。

00260-7-13577 湘友会

絵はがきに収められている絵画は次の8葉です。

- 「烏森」塚本 茂(元美術教諭)
- 「パンジーのある静物」山下大五郎
- 「ピンのある静物」三浦次郎
- 「アネモネ」鈴木 清
- 「6月の港」石川滋彦
- 「辻堂風景(落日)」甘糟三郎
- 「城ヶ島」小泉元生
- 「Iベストの見える丘」澤 昌男22(元美術教諭)

### 湘友会会員数2003

2003年3月の新入会員は合計435名で、内訳は全日制360、定時制72(手続中)、通信制3でした。その結果、2003年現在の会員数は、判明している物故者以外で約46000人を数えます。

### 湘南高校新入生2003

全日制入学者: 316名(男子166、女子150)  
男子が女子を上回りました。

定時制入学者: 134名(男子66・女子68)

通信制入学者: 一般425名(男子199・女子226)  
少年工科大学校270(男子)

### 湘友会ホームページ

<http://www.shoyukai.org/>

湘友会はホームページを開設以来、3年間に延べ5.7万回の閲覧を記録しています。湘友会報そのものに加え、母校の行事などをご覧になれます。支部の例会やクラブOB/OG会の予告、ホームページならではの情報交換にご利用ください。

### 湘南卒業生の中のメーリングリスト

湘友会としては直接関与していませんが、加入者間で公開のおしゃべりや情報交換する「メーリングリスト」があります。湘南の卒業生つまり湘友会員であれば加入できます。加入手順を概略すると、

[Majordomo@shonan.dhs.org/](mailto:Majordomo@shonan.dhs.org/) あてに、以下のコマンドをeメールで送って下さい。

Subscribe [Shonan@shonan.dhs.org](mailto:Shonan@shonan.dhs.org/)[あなたのeメールアドレス] end 加入意思確認のやり取りのあと、メールが届き始めます。

入会后メールを送る(掲示する)場合は [Shonan@shonan.dhs.org](mailto:Shonan@shonan.dhs.org/) に送ります。

### 後記

湘友会報はホームページで見ることができます。

会員の住所変更については、電話ではなく、湘友会ホームページ、E-mail、はがき、またはFAXで、湘友会事務所宛お知らせ下さい。特に物故者連絡は、確認できる連絡者を明記して下さい。

来年2004年の総会運営は、卒業年次末尾4の方々が中心になります。

34回生、44回生、54回生、64回生の皆さん、出番です、よろしくお祈りします。

第45号の編集スタッフ

(略)

### 会報編集部から寄稿に関するお願い

毎年3月末までに届いた同期会、クラブOB会、各種湘友会などの記事は、会報に掲載できます。連絡先明記の上、A4版用紙に記事(横書き)や写真(1枚)などをまとめて湘友会事務所に直接お送り下さい。もちろん電子的にJFL-ディスク直送(windows版)、メール添付も歓迎です。ただし、3月末の締切期限厳守です。

記事は「同期学年全体にわたる集い」「同窓会全体に呼びかける集い」「クラブごとのOB全体の催し」について会報に掲載する旨の基準を設けさせていただきます。判断不明のときは、事務所にお問い合わせください。ご協力よろしくお祈りいたします。